

あとから本を書こうが書くまいが、いずれにせよ彼は山には登っただろうし、登っている最中にあとから本を書く自分を意識するなどということもない。

大きく見て、「あとから～登っただろうし、」と「登っている最中に～などということもない。」の 2 つのことを並べていると感じたので、2 文に分け、**and** で最後につなげます。「あとから～登っただろうし、」の最後は、「登った」であると考え、さらにこれをヒントにそれを述語にすることを考えます。また、「登っている最中に～などということもない」の述語も、末尾の「意識するなどということもない」という日本語をヒントに、そのまま述語にすることにしてから、それ以外の修飾語を拾っていくという展開を考えました。

A. **あとから本を書こうが書くまいが、いずれにせよ彼は山には登っただろうし、**

方針で考えたように、「登った」という日本語から、

▪ S climb A 「S は A を登る」

を中心に据えます。

(a) **いずれにせよ彼は山には登っただろう。**

S に入る【登った人】はそのまま he に、A に入る【登る対象】は、いくつもあったことを想像して mountains とします。末尾の「ただろう」というところから、【それ以前の出来事に対する推測】だと考え、climb を would have climbed にしました。

(1) he would have climbed mountains

いずれにせよ

残りは「いずれにせよ」ですね。そのまま熟語で覚えている in any case を用いて、(1)の後ろにつけます。

(2) he would have climbed mountains in any case

(b) **あとから本を書こうが書くまいが、**

「あとから～書くまいが」の処理をします。「書こうが書くまいが」のように、【**選択肢の提示**】をするつなぎの語句を探します。

▪ **whether (S)(V) or not 「(S)(V)でもそうでなくても」**

は思いつきやすかったかもしれませんがね。この(S)(V)に「あとから本を書く」を入れます。述語は「書く」をヒントに、

▪ **S write A 「SはAを書く」**

を使い、**he writes a book** にして、組み合わせておきます。

(3) **whether he writes a book or not**

(c) (a) + (b)

そして(3)は(2) **he would have climbed mountains in any case** の前でも後でもいいのですが、今回は前に置いて、カンマを挟むことにしました。

(4) **whether he writes a book or not, he would have climbed mountains in any case**

B. 登っている最中にあとから本を書く自分を意識するなどということもない。

方針に従い、「意識するなどということもない」を英語にします。「など」が入っていますが、【例を列挙する】ための「など」ではありません。こういった、若干の意味は感じるものの、添えただけの「など」は訳出しなくても大丈夫ということを知っているので、無視し、「意識するなどということもない」の訳出を中心にします。

(a) 本を書く自分を意識するなどということもない。

【その時していることが自らわかっている状態】ならば **conscious** が使えるのですが、問題文をよく読むと、山を登っている途中で、そんな状態にはならなさそうです。どちらかというところ、「本を書く自分」を【思い描くかない】感じですか。このあたりで使えるような表現は **imagine** だと思いました。【想像する内容】は問題文では「本を書く自分」のように名詞表現になっていますが、**できるだけ(S)(V)の形で処理をする**という考え方をとると、表現がより簡単になります。そこから、

- **S imagine that (S)(V) 「S は(S)(V)ということ想像する」**
を利用しようと思いました。

(4) S imagine that (S)(V)

【思い浮かべているひと】である **S** には「登山家」なので、引き続き **he** を使います。それに応じて **imagines** にし、否定文にしておきます。

(5) he doesn't imagine that (S)(V)

(S)(V)の部分に対応する問題文は「本を書く自分」です。そこから思いつく述語は、日本語としても表に出ている「書く」です。

▪ S write A 「SはAを書く」

を利用します。【書く人】である S には「登山家」が入るので、これも引き続き he を用います。【書き上げた後の出来上がるもの】である A には a book を入れます。【書く】のは【想像している】よりも未来のことなので、【過去の時点から見た未来】ということで、would write にします。そしてこのカタマリを(5)の(S)(V)の中に入れます。

(6) he doesn't imagine that he would write a book

「あとから」を訳出します。「から」とありますが、「あと」を【起点】にしているわけではなく、【それ以降】を表しているだけです。later あたりを使い、(5)の後ろに置きます。

(6) he doesn't imagine that he would write a book later

(b) 登っている最中に

最後に、「登っている最中に」を英訳します。修飾語はつなぎの表現から考えると便利です。日本語のつなぎの語句はそのカタマリの末尾につくことが多いので、「最中に」に着目しました。【間】を示すつなぎの語句は during A や for A がありますが、「登っている」という、動詞を利用しやすそうな表現がありました。

▪ while DOING 「DOING している間に」

を使うことにします。「登っている」という日本語から、

▪ S climb A 「SはAを登っている」

が使えるそうです。が、行為自体にスポットが当たっていると考えて、

【登る対象】を表さない、

▪ S climb 「Sは登る」

を選びます。DOINGの形にして、whileの後ろに入れます。

(7) while climbing

(c) (a) + (b)

(7)を(6) he doesn't imagine that he would write a book later の後ろに入れます。

(8) he doesn't imagine that he would write a book later while climbing

while climbing がこの位置に置かれると、would write を修飾しているようにも見えますが、登っている間には本は書けないし、誤解されなれないと思ひ、無理やり imagine の直後に置くことを避けました。

C. A. + B.

そして方針通り、(4)と(8)を, **and** でつないで終了です。

- (9) **Whether he writes a book or not, he would have climbed mountains in any case, and he doesn't imagine that he would write a book later while climbing.**

Model Answer

Whether he writes a book later or not, he would have climbed mountains in any case, and he wouldn't have imagined he would write a book later while climbing.